平成２１年１０月の解説（週間天気予報）

【１０月の天候状況】

上旬の初めは前線を伴った低気圧が西日本を通過したため全国的に天気はぐずつき、熊本県を中心に猛烈な雨となりました。8 日は台風第 18 号が愛知県に上陸し、全国各地で暴風や大雨となりました。中旬は北日本から西日本では天気が周期的に変わりましたが、沖縄地方では曇りや雨の日が多くなりました。下旬の前半は高気圧に覆われて全国的に晴れの日が多くなりましたが、25 日から 27 日かけて台風第 20 号が日本の南を北東に進んだため、南西諸島と東日本の太平洋側を中心に大雨となりました。

月を通しての日照時間は東北地方から中国地方で平年より多く、沖縄地方ではかなり少なくなりました。降水量は北日本から西日本の太平洋側を中心に平年より多く、南西諸島ではかなり多くなりました。気温は全国的に平年より高くなりました。

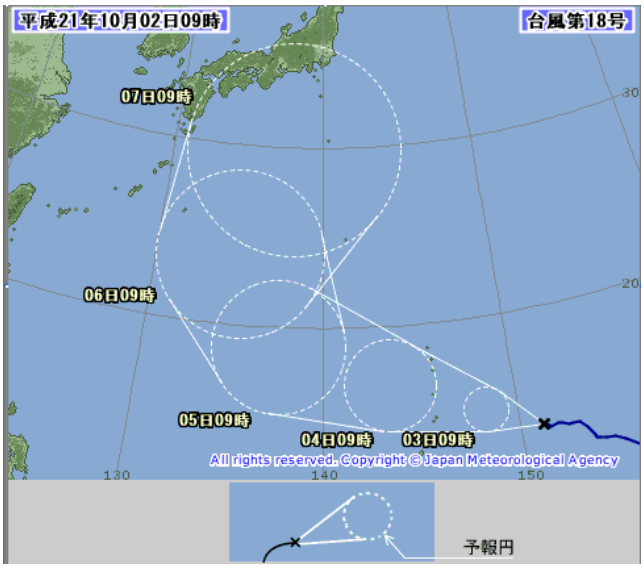
【１０月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年(注)より 6 ポイント高い 78%でした。東日本から中国・四国地方と九州南部地方では 8 から 15 ポイント高くなりましたが、沖縄地方では 4 ポイント低くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は近畿地方から九州北部地方では例年より 0.2℃から 0.3℃小さくなりましたが、沖縄地方では 0.6℃大きくなり、全国平均は 0.1℃小さい 2.1℃でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差はほぼ全国的に例年より 0.3℃前後小さくなり、全国平均では 0.2℃小さい 1.9℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【１０月の週間天気予報から】

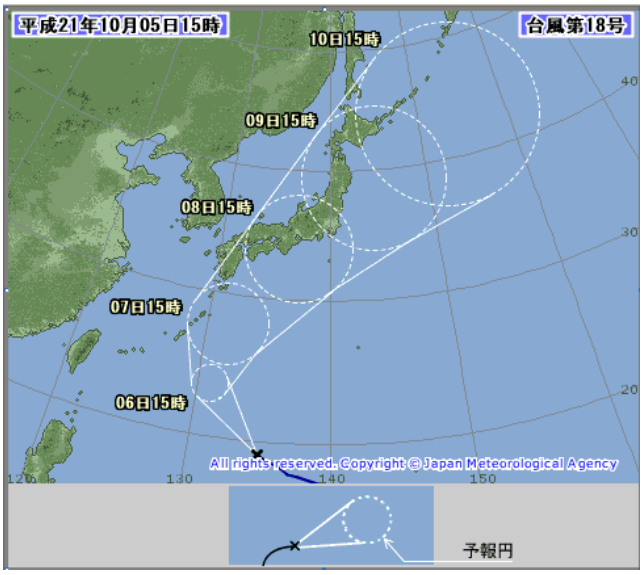
１０月８日には台風第１８号が２年ぶりに日本に上陸し、各地に大きな被害が発生しました。この台風第１８号は今年から発表が開始された台風５日予報で、５日目の予報円が本州の広い範囲にかかる予想となった初めての台風です。週間天気予報ではこの台風第１８号に対してどのような予報を行っていたのでしょうか。



第１図　１０月２日１０時過ぎに発表した台風

第１図は、気象庁が１０月２日１０時過ぎに発表した９時の台風経路図です。５日目（１０月７日）の予報円の一部が西日本から東日本の広い範囲にかかっています。この台風予報を受けて、同日１１時に発表した全般週間天気予報では「東日本と西日本は、７日頃から台風第１８号の影響を受けるおそれがあ

ります。」、関東甲信地方の週間天気予報（概況）でも「７日頃から台風第１８号の影響を受ける恐れがあります。」と、台風の影響について言及しました。第２図は、５日１５時の台風経路図です。台風が日本に近づき予報精度が上がると共に、進路に加え強度の予報が加わる３日目までの予報円に東日本が入ってきました。そこで、５日１７時発表の関東甲信地方の週間天気予報では、「８日は台風第１８号の影響を受け大荒れの天気となるでしょう。」とより警戒を呼びかける表現に変えました。また関東甲信地方各都県の８日に対する日々の府県週間天気予報も前日発表の「雨」から、「雨で暴風を伴う」と台風の影響を盛り込んだ予報を発表しました。



第２図　１０月５日１６時過ぎに発表した台風

現在、全般週間天気予報では次のように台風への注意・警戒を呼びかけています。台風の影響が４日目から５日目に予想される場合は、台風５日進路予報の予報円に基づき「□（□には通常、西日本、東日本、北日本、沖縄・奄美）では●●日頃から（◎◎日頃にかけて）、台風第○号の影響を受ける恐れがあります。」といった表現を行います。台風の影響が明日(１日目)から３日目までに予想される場合は、「□では×日～××日にかけて台風第○号の接近により大荒れの天気となるでしょう。」と日付を明示した上で、必要に応じ「大荒れの天気」や「荒れた天気」を表現しています。地方週間天気予報でもこれに準じた表現を行っています。

台風による災害を軽減するためには早めの防災対策が有効です。また、期間の後半ほど予測の精度は落ちるものの、外出の予定や行事の計画などあらかじめ対策を考えておくことにも利用できます。

台風情報とともに常に最新の週間天気予報を利用して台風に備えてください。

【１２月の週間天気予報の利用にあたって】

12 月は低気圧が通り過ぎるごとに北から冷たい空気が流れ込んで寒くなり、北日本では本格的な雪の季節が始まります。北海道では本格的な雪への対策が必要な時期ですが、東北地方より南では雨が降ることも多く、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。

降水が雨となるか雪となるかは、主に地上付近の気温によりますが、湿度や上空の気温などによっても違います。天気予報では雨になるか雪になるかが微妙な場合に、雪になる可能性が大きいときは「雪か雨」（天気マークは雪）、また雨になる可能性が大きいときは「雨か雪」（天気マークは雨）と発表します。雪になると交通機関などに大きな影響がありますので、「雨か雪」の予報が出ているときは、天気マークが雨となっていても雪が降る可能性があることに注意して下さい。